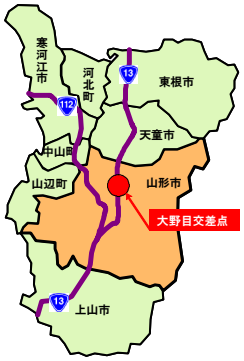
大野目交差点立体化事業における『工事計画ＰＩ』の取組みについて

東北地方整備局 山形河川国道事務所　正 会 員　小浪　尊宏
法人会員　大津　輝男
法人会員　芳賀　俊之
法人会員　○吉田　光広
新 日 本 技 研 株 式 会 社　正 会 員　五井　寛治
林　正克

１．はじめに

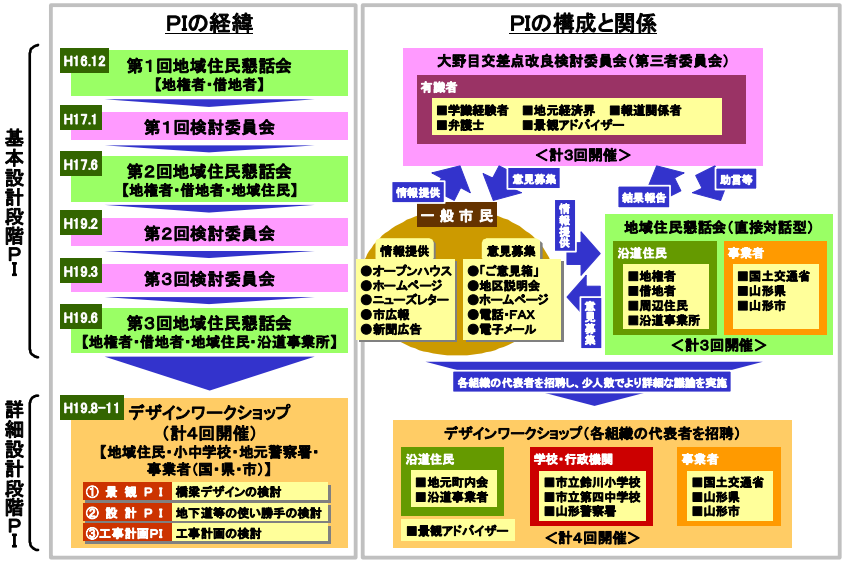
一般国道１３号大野目交差点改良事業は、山形市中心部の北東に位置し、１日５万台以上の交通量のある大野目交差点(図-1)における慢性的な交通渋滞の解消を図るとともに交通事故の抑止、騒音や大気汚染等の環境改善を図ることを目的として、交差点を立体化する事業である。本稿は、同事業の実施にあたって進めてきた市民参画（以下、ＰＩ）の目的・経緯及び成果を紹介するとともに、特に事前に工事計画を公表した上で市民と合意形成を図った、「工事計画ＰＩ」について報告するものである。なお、工事計画に関するＰＩの取組みは、東北地方整備局としては初の試みである。



▲図-1 位置図

２．大野目交差点改良事業の概要とＰＩの経緯

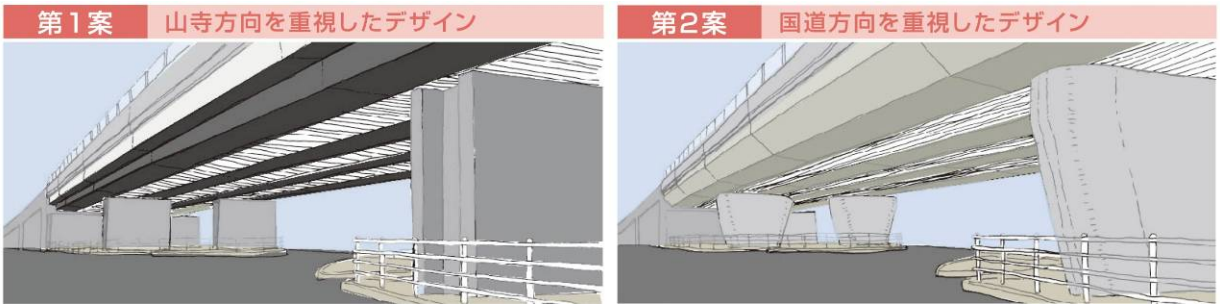
大野目交差点の立体化による生活道路の利用形態の変化、景観の変化、沿道施設の移転、工事中の沿道環境対策などの諸問題解決のため、当初よりＰＩを導入している。本事業におけるＰＩの経緯及び構成について図-2 に示す。このうち、基本的な設計内容について対象とする「基本設計段階ＰＩ」では、既設交差点の代替地下道の設置、閉鎖する交差点の代替右折レーンの設置等の意見について設計に反映することで基本設計の合意が得られた。これを受け、歩道等、個別の施設の詳細について対象とする「詳細設計段階ＰＩ」では、①橋梁デザインの検討(景観ＰＩ)、②地下道、歩道等の使い勝手の検討(設計ＰＩ)、③工事計画の検討(工事計画ＰＩ)の３項目を議題とした。以下、その内容について簡単に報告する。



▲図-2　ＰＩ経緯フローと構成

（１）橋梁デザインに関する市民参画の取組み(景観ＰＩ)

立体化に伴い新設する高架橋のデザインは、周辺住民だけでなく、広域的な道路利用者が目にするものである。広く意見を伺うため、インターネットや市内１９ヶ所に設置した「投票箱」を通じた市民投票によりデザインを決定することとした。



▲図-3　橋梁デザイン案のイラスト

本事業の「景観アドバイザー」を依頼している、建築家の香川浩氏の協力を得て作成した２案(図-3)に対し、約１ヶ月の投票期間を通じ、計 488 票の投票があり、優勢であった第２案を採用することとなった。

（２）地下道、歩道等の使い勝手に関する市民参画の取組み(設計ＰＩ)

地下道や歩道等のデザインは、地域住民や周辺小中学校等よりなるデザインワークショップ(以下、ＷＳ)により決定した。主な要望事項を表-1 に示す。

ＷＳにおいては、ＣＧ等を活用することで図面では気が付きにくい細部まで議論を深め、また、現地調査によるヒューマンスケールでの検証を行った結果、多くの意見を設計に反映することができた。

▼表-1　地下道や歩道に関する要望事項

	ＷＳでの主な意見
地下道について	1. 内装は明るいもの(光を反射するもの)が良い
	2. 幅員は３ｍでちょうど良い(４ｍあると広々として良いが自転車が暴走しやすい)
	3. 中央分離帯直下に明かり取りを設置してほしい
	4. 照明は耐用年数の長いものとしてほしい
	5. 壁面は汚れにくいものとしてほしい
	6. 地下道は女性や子供の利用が多いので、弱者にやさしい構造としてほしい／子供が安心して安全に通れる地下道として頂きたい
	7. 見通しがよく死角のない地下道としてほしい
歩道について	1. 歩道についてはカラー舗装または脱色アスファルトが良いと思われる
	2. 植栽は、雑草を取りきれずゴミ捨て場となる。また、除雪の際に雪だまりとなり植栽自体が潰れてしまう。
	3. 維持管理が困難。木の根で舗装が割れる、枝が伸びて歩行者にぶつかる等の弊害もある。

（３）工事計画に関する市民参画の取組み(工事計画ＰＩ)

これまで、工事計画を事前に住民へ公表し、意見や理解を求める試みはほとんど行われていない。しかし、5～6 年に及ぶ交差点改良工事は、住民の日々の生活に多大な影響を及ぼすため関心が高い。このため、工事着手前にパンフレット(図-4)、「ご意見箱」(図-5)等により計画を公表し、市民の意見を踏まえ計画を修正するプロセスを採用した。

その結果、工事中の抜け道交通（通過交通）対策や工事渋滞の緩和等、得られた意見を踏まえた工事計画とすることとなった。

▲図-4 工事計画パンフレット

▲図-5 ご意見箱

工事計画ＰＩの取組みによって、広く工事計画の周知が図られるとともに、地域住民が持っている不安を軽減でき、地域住民の工事に対する理解と協力意識の向上につながったと考えている。

３．まとめ

積極的にＰＩを進めることで、比較的短期間で設計に対する地域住民との合意形成を図ることができ、また円滑な用地交渉に寄与できたと考えている。また、併せて実施した広報活動の効果もあり、山形市民を対象に行ったインターネット調査によると、ＰＩの認知度は 26%から 71%まで上昇しており、「誰も知らないＰＩ」から「皆が知っているＰＩ」へ変わっていることを実感している。ＰＩの結果得られた計画を踏まえ現在、工事発注の準備を進めており、平成２０年春頃の工事着手を予定しているところである。